

生田ゼミナール X マルネーラバレ大学生 交流報告
国際理解学科3年外山翔太

7月14日フランス、パリ大学のひとつであるマルネーラバレから6名の大学生が来校し、国際学部の生田ゼミナールへ参加しました。

関康平（国際理解学科3年）さんの流暢なフランス語によるウエルカムスピーチ（写真）のあと、全員が英語で自己紹介のあと、相互理解のゲームや「自分の大切にしている価値と幸せ」についてディスカッションを行いました。

後半は、体育館で、山涼子さん（国際理解学科3年）の案内により、和太鼓部（代表：柴田さん）の演奏と和太鼓の体験レッスンを行いました。その後、茅ヶ崎で食事をとりながら夜遅くまで語り合い、個人的にも親しい友人を得ることができました。コミュニケーションは主に英語で行われ、まさに英語を母語としない言語話者が使う「リングフランカとしての英語」の実践の場でもあり、文化や言語が違う人たちが英語を使って交流できるという、英語の素晴らしさを改めて感じる事ができたように思います。将来、英語を使って人のために何か役立つ仕事をしたいという気持ちが高まりました。

以下は、参加した学生の感想の一部です。

●フランス語、英語、日本語（少し）、スペイン語、家族の出身地の言葉（アラビア語など複数の言語が話せるフランス人留学生たちに圧倒された。吉田
●英語プラス言語の習得が必要と実感。山川

●□英語を使いフランス人とのコミュニケーションが円滑に進み、自信がついた。これからも英語をもっとがんばります。チウ ジアハオ

●初めて、フランス人の方と会って交流をしてすごく貴重な経験になりました。フランス人学生の皆さんはとても明るくて、自分たち日本人よりも積極的に生き生きしているように感じました。また今度、一緒にお話をしてお互いの文化をもっと共有できたらいいなと思います！ 山口

●フランス語を勉強していますが、ネイティブの方々と話す良い機会となりました。関康平